サービスラーニングの振り返り

社会福祉学部・社会福祉学科　2年　大山将輝

今回私は8月15日から8月20日の6日間、東海市在宅介護家事援助の会　ふれ愛　サービスラーニングという活動をさせていただきました。そこで私はどのような支援をしているのかを知り、自分自身を成長させる。という目標を考えたのである。

ふれ愛ではグループホーム・障害児・デイサービスの3つがあり、主にグループホーム・障害児に参加したのである。グループホームでは利用者さんのトイレ、入浴、お昼寝など利用者さんの生活リズムの中に必ず職員さんが関係しているが、お食事など利用者さんが1人でもできることは1人でしてもらうのである。しかし障害児では比較的に自由でその日の最初に何をするのか決めてそれに職員さんが付き添うというような形になっているのである。

①　自分の成長と気づきについて

今回私が活動を通して成長したと思うことはコミュニケーションである。今回活動させていただいた施設では認知症の方や障害のある子ども達とコミュニケーションをとる場面が多く、また私自身もそのような人たちとコミュニケーションをとる機会がなく、どのように行えばいいのかわからなかったのである。したがって私は1日目に職員さんがどのようにコミュニケーションを行っているのかをよく見るようにしたのである。そこで学んだことは、コミュニケーションをとるときには目線を合わせ、話を聞く姿勢になりしっかりとあいづちをするということである。そうすることにより利用者さん自身に関する話などをしてくれるようになり、また私自身の話をすることによりさらに話を弾ませることができるのである。しかし認知症のある利用者さんたちには個人差があり、前日に行ったことを覚えている利用者さんもいれば覚えていない利用者さんもいるのである。覚えていない利用者さんとはその日の最初に前日行ったコミュニケーションを最初から行わなければいけないのである。

②　活動を通して見えてきた地域や市民活動の現状や課題について

ふれ愛ではデイサービスも対応しており多くの人が足を運んできており、夏祭りなどのレクリエーションも企画しているのである。また笑いヨガなど体を使った遊びをする先生も来るときもあるのである。したがってデイサービスでは地域との関わりはとても良いのである。また障害児では近くの公園に虫取りに出掛けるなど多くの人たちと触れ合う機会があるが、もっと工場の見学など楽しんで学ぶことができる企画を増やしていったほうが良いのではないかと考えたのである。グループホームではあまり外には出掛けるときがなく毎日同じ人達としか触れ合っていないのである。したがって外に出る機会を増やすか、デイサービスの人たちと触れ合う機会があった方がいいのではないかと考えたのである。そのようにすればふれ愛はもっと生活がしやすい、また足を運びやすい場所となり多くの人であふれる場所になると考えたのである。しかしそうなってくると今のままでは施設が小さい、または今でも職員さんの人数が足りないのにもっと足りなくなってしまうなどの課題が出てきてしまうのである。そのような課題を少しでも緩和できるのは地域の人たち

の助けなのである。したがって今のうちから周囲に住んでいる人達、周囲の同じような施設、学校など多くの人たちと繋がっておく必要があると私は考えたのである。

目には見えない成長

社会福祉学部　社会福祉学科　15FF1960　佐竹名菜

1. 活動先

「NPO 法人　東海市在宅介護支援家事援助の会　ふれ愛」でサービスラーニングを行った。助け合いの心、困ったときはおたがいさまの心を大切に介護保険による訪問介護、通所介護、グループホーム及び障害者自立支援法による在宅介護、重度訪問介護、子育て支援を始め、困難を抱えるご家族等への通院外出の移送サービスの実施　又、地域ふれ愛事業では新しい公共支援活動として、居場所サロンを展開。

2. 活動内容

利用者の方とのコミュニケーション方法を学ぶこと、グループホームと特別養護老人ホームの違いを学ぶことを目標とした。グループホームでは利用者の方と一緒に行うことのできる魚釣りや輪投げ、風船バレー、粘土などのレクリエーションと地域に出かけるといった外出支援を行った。そこでは利用者の方に楽しんでいただくこともでき、よりコミュニケーションをとらせていただくことができた。また利用者の方一人ひとりと向き合うことができた。けれど高齢者には難しいルール設定や、車椅子に配慮したルールを考えるのは難しかった。そして障害者施設ではトランプや UNO などのレクリエーションと公園へ虫取りに行き自然と触れ合った。また中部国際空港に社会勉強にも行った。利用者の方とどう接してよいのか、私のことを受け入れてくれているのかという不安から消極的になってしまい、自分から動くことができなかったなどの課題が残った。

3. 学び・気づき

コミュニケーションやレクリエーションを通し、利用者の方一人ひとりを個人としてとらえることの大切さを学んで。利用者の方は自分の好きな時間に食事をされ、信頼している職員さんに入浴支援をしてもらっていた。利用者の方はそこに入所されており、その集団に属している方だけれど、今まで生きてきた経歴や生活習慣を変えてはいけないのだと感じた。そこには職員の方々の個別支援への意識が必要だと気づいた。

そして、グループホームで利用者の方の一緒に洗濯物をたたませていただいたり、フロアに夕食の準備をしている音やお米のたける臭いがすることが家の雰囲気を出していると感じた。家の雰囲気があることで利用者の方は落ち着いて生活することができると同時に、自ら自分の役割を見つけることができているように感じた。そこがグループホ

ームと特別養護老人ホームの大きな違いであると思う。
活動の経験からグループで高齢者支援をテーマに研究していくことにした。施設で暮らす方への支援と地域に暮らす方への支援、地域支援、生きがい、地域での町おこしについて分かれて研究していくことにした。私は活動の経験から、施設に暮らす高齢者は生きがいを持って暮らせているのかという疑問もあり、生きがいについて研究していった。調べていくと、地域に暮らす高齢者は趣味を生きがいにしていることが多く、施設に暮らす高齢者は日常生活を生きがいにしている場合が多いとわかった。どこで地域に暮らす高齢者のほうがいい生きがいを持っているように感じてしまうが、どんな生きがいでも生きがいを持っていることで生きる意欲につながっていると学んだ。

4. まとめ

以上のサービスラーニングを通して自分は、利用者の方とのコミュニケーション方法を学び、個別支援の意識が変化した。また生きがいをはじめとし、人には違ったとらえ方があると気づき、今までは狭い視野で利用者の方のことを見てきたが、少し広い視野で見ることができるようになったと感じる。
今後、経験を活かし社会福祉実習でも高齢者の方と積極的に関わっていきたい。そして、より地域福祉に興味をもったため、地域福祉での社会福祉協議会の活動なども学んでいきたいと思った。

自己の成長と気づき

社会福祉学部社会福祉学科２年
15FF2372 反町真輝

私はNPO法人東海市在宅介護家事援助の会ふれ愛に行き、様々なことを活動して多くのことを学んだ。ここの施設では高齢者のグループホームや障害児の通所介護などを行なっている。

私は高齢者について詳しく学ぶためにこの施設に行った。具体的には現場を見て、高齢者施設がどのようなことを行っているのか、高齢者はどういった生活をしてどういったことを思っているのかを知ることために、この施設を選択した。

この施設で私たちの班は自分たちで考えたレクリエーションを行った。レクリエーションの内容として私たちの班ではクイズと魚釣りを行った。まずクイズについて、クイズを選んだ理由は２つある。１つ目の理由として、クイズは誰でもできて参加しやすいということ。難しい企画にするとわからなくなって参加できなくなってしまい、楽しめなくなってしまう恐れがあると考えた。そこでだれでも参加しやすく簡単に楽しめるクイズが良いと考えた。２つ目の理由としてクイズは頭の体操になると考えたからである。頭を使うことで認知症予防や老化予防につながると考えた。しかし難しい問題では利用者が答えられない。反対に簡単すぎる問題では頭を使うこともできず、面白さも無くなるため適切な問題を考えた。どういった問題が適切か考えることは苦労したが、その考えることは非常に意味のあるものだったと思っている。次に魚釣りについて説明したいと思う。道具は釣竿魚を用意した。釣竿は割りばしの先端に糸をつけ、その糸の先に磁石をつけたものである。魚は画用紙に魚の絵を描いて魚の形に切り取りに口の部分にクリップをつける。これで道具は完成である。内容はシンプルで、磁石の付いた釣竿をクリップが付いた魚に近づけて魚を釣るものである。

クイズは利用者のリアクションもよく、自分たちでも満足の結果であった。ほとんどの利用者が１問１問真剣に考えてくれた。積極的に答えてくれたので盛り上がり、良い雰囲気でクイズを行うことができた。わからない問題でも真剣に考え、他の人が答えを言った際「あーそうだったのかー。」や「惜しかったー。」などの発言をしていたので、積極的に参加しようとしているという気持ちが伝わり、みんなが取り組んでいることを実感することができた。職員の方にも「あんなに盛り上がるのは久しぶりだよ。」と声をかけていただいた。魚釣りは楽しんでくれる利用者の方もいたが上手にできないまま終わってしまう人もいて成功とは言い難いものであった。なぜそうなったのか私は考えた。はじめはみんななかなか魚が釣れなく困っていたが私たちがサポートして、上手に魚を釣れるように誘導した。サポートした利用者の方々は上手に魚を釣ることができてうれしそうな表情をしていた。しかし時間制限や人数の関係もあり、全員に対してサポートすることができなかった。そのため楽しめない人が出てくるといった結果になってしまったのだと私は考える。

課題としてやはり全員が参加して楽しめるという環境を作り出すことに欠けていたのだろう。クイズは全員と同時にかかわることができたが、魚釣りではそれがうまくいかなかった。自分たちの人数や限られている時間を配慮できなかったことが問題であった。また実際にシミュレーションを行いスムーズに行えるか予測しなかったことがこのような結果

になったのだろう。

私は活動を通して地域が抱える問題をみた。私がサービスラーニングを行ったふれ愛は地域の子供たちを招き、高齢者と関わりを持たせる活動をしている。そうすることで地域のまとまりがうまれる。このような活動が今後も増えていくと良いと感じた。